

緑の担い手

林業を志望した理由

大子町森林組合
椎名 琴絵

私は、大子清流高等学校の森林科学科を卒業し、大子町森林組合に就職しました。

森林組合に入るきっかけは、高校の実習で高性能林業機械の操作やチェーンソーでの伐採を体験したときに、機械を使いこなし、的確に作業を行う講師の方々の姿にあこがれ、私もあのようになりたいと思ったからです。

いざ仕事に就いてみると、伐採作業だけでなく、地拵え、植付、下刈りといった体力的にも大変な作業があり、これから林業を続けて行けるのか不安になりました。

そんな時、職場の上司から「緑の雇用」研修を案内され、参加するのことにしました。私は、高校生の時に、実習でチェーンソーと刈払い機を使用する機会があり、資格を取ることでもできましたが、実際の林業作業で必要な知識や技術については、分か

らないことがたくさんありました。

「緑の雇用」研修では、林業に関する知識や技術を基礎から学ぶことができ、とても良い機会が得られたと思います。また、高性能林業機械を操作する上で必要な資格も取得できたことで、対応可能な仕事の幅が広がりました。さらに、安全に配慮しながら作業を行えるようにもなりました。

今年度は、最終年である3年目の研修を受講することになります。現在、作業現場では、伐倒、造材、搬出作業を中心に仕事をしていますが、さらに勉強を重ねて、研修で学んだことを活かしていきたいです。

最後に、山仕事には常に危険が伴うので、今後も先輩方からの指導を受けながら、怪我や事故のないように安全な作業を心がけ、地域の森林が豊かになるよう頑張っって参りたいと思います。



北から 南から

コンテナ苗ラックの使用結果

笠間林業指導所

コンテナ苗の新たな運搬方法として開発された「コンテナ苗ラック」(以下、「ラック」)を、笠間広域森林組合の協力を得て、笠間市大橋地内の再造林地で使用し、工程調査を行ったので紹介します。

この現場では、森林施業の集約化と森林経営計画に基づく計画的な森林整備が進められています。林内には、林業専用道及び林内作業路が整備されており、本年の春に主伐した跡地へコンテナ苗を植栽しました。

今回の事例では、森林組合が軽トラックで、苗木を生産者宅へ受け取りに行きました。苗木はあらかじめラックに収納されており、生産者がフォークリフトを使用して、手回しの必要も無く、積み込み作業を短時間で行えました。

植栽する場所は、専用道を起点に林内作業路を500m程入った所にあります。今回は、専用道にラック付きフォワーダを待機させ、軽トラックを横付けしてラックを積替えました(1分弱)。次に、苗木を傷めないようスピードに注意しながら運搬しました(往復・6分弱)。到着後は、グラップルでラックを地上へ下ろし、人力で荷卸しを行いました(1ラック3千本の場合・約4分)。専用道で積み替え、現場に荷卸したフォワーダが戻ってくるま

でに要した時間の合計は約11分でした。

一方、従来の段ボール箱で梱包した3千本を、運搬車(800本積載)で4往復して運んだ場合の所要時間は、約120分でした。

以上のことから、ラックとグラップル付きフォワーダを使用することで、人力作業の縮減と運搬時間の短縮が図られ、低コスト化が期待できます。県林業種苗協同組合では、この新たな苗木の運搬方法を普及するため、ラックを貸出していますので、是非御利用ください。

